



京都大学 大学院 総合生存学館

思修館

The Graduate School of
Advanced Integrated Studies in Human Survivability
“Shishu-kan”
KYOTO UNIVERSITY

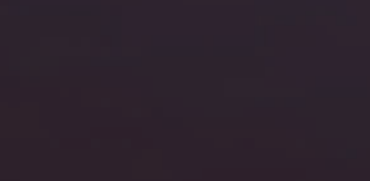
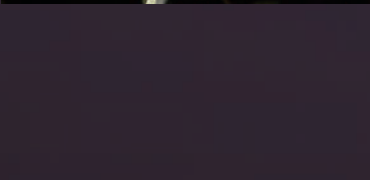
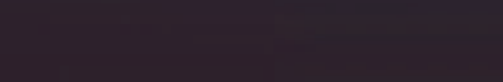
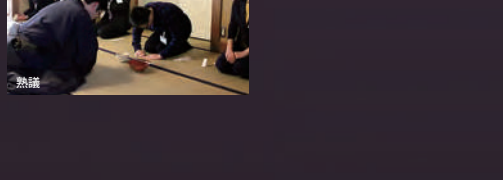
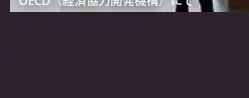
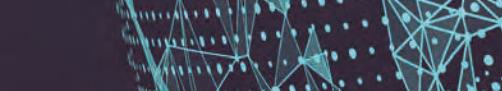
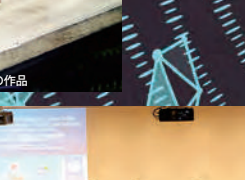
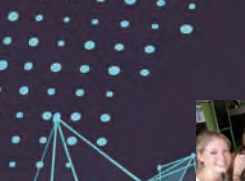


「総合生存学館のミッション」

俯瞰的・総合的な視点から

課題解決のための問題設定力・分析力・実践力を備えた

真のグローバルリーダーの育成



京都大学 大学院総合生存学館

私たちが生きる地球社会は、今、数々の複合的・構造的な諸問題に直面しています。これらは、文化・産業・経済・国家などの複雑で巨大なシステムに関わる、種々多様でグローバルな課題であり、解決のためには持続可能で創発力のある社会システムが不可欠です。そして、この新たな社会システム構築に向けてリーダーシップを

発揮できる人材、ゼロから1を生み出し、実践・持続させていける力を持つ人材の育成が、今、強く求められています。

「総合生存学館」（通称：思修館）は、こうした社会の要請に応え、未来のリーダー育成を目的として平成25年4月に新しく設置した大学院です。

総合生存学とは

私たちが直面している課題はいずれも、個々人、地域社会、産業システム、社会システム、さらには国家や世界全体が共存するために、そして持続可能な未来を創り出すために、必ず乗り越えなければならない重要かつ複合的な社会課題です。従って、こうした課題を克服するための思想・政策や方法を幅広く探求する学問が必要となります。「総合生存学」とは、「人類と地球社会の生存」を基軸に、関係する諸々の学問体系の「知」を結び付け、編み直し、駆使して、複合的な社会課題の発掘・分析と定式化・構造化を行い、社会実装までの解決を探求する学術の総体であり、「生存知の構造化と公共化」を対象とする総合学術です。

総合生存学館の目的と意義

総合生存学館では、幅広い領域にわたる「総合生存学」を確立し、それを修得したグローバルリーダーを育成することを目的としています。この点が、特定分野の研究者育成・専門職人材育成を第一の目的とする、既存の研究科との大きな違いでもあります。

多様な「知」を結集し、実践に応用するためには、いかに智慧を発揮できるかが鍵となります。日本の伝統的な考え方によれば、智慧は、多くの知識や情報を集める「聞」と、様々な知見に基づく創造的「思」をもとに、これらを有効に使い、実践することによって身につく「修」から構成されています。

総合生存学館では、この「聞思修」の考え方にもとづき、人類社会の生存と未来開拓を担う各界の世界的リーダーに求められる多様な価値観、広い世界観と見識、確かな哲学と高い志、それらに基づく柔軟な思考を養うために、専門的知識に加え、総合的な文理融合能力及び俯瞰力を培い、複合的な社会課題の解決方法を研究し実践する能力を養成します。

論文題目の例

- パフォーマンス評価による成人の科学的リテラシーの把握及び学校教育段階の科学に対する態度との関係の検討
- The Realisation of the Human Right to Water under International Law: The roles of Global Administrative Mechanisms
- 都市域における多環芳香族炭化水素類の降雨流出に伴う挙動特性の把握および実践的な雨水管理による負荷削減方法の検討
- Analysis of cellular toxicity induced by accumulation of abnormal protein in organelles
- Development of Competence-based Curriculum in Rwanda - Focusing on critical thinking and career development of Rwandan students -
- 超高齢社会における障害者福祉のあり方に関する研究 - ダウン症候群の事例に基づく分析 -



国際機関やグローバル企業への就職を考える人へ京都大学大学院総合生存学館が応えます。



総合生存学館の特徴

国際標準の知識と経験に基づく実践力と志を育む、5年間の総合一貫プログラム



八思

「医薬・生命」「情報・環境」「理工」「人文・哲学」「経済・経営」「法律・政治」「語学」「芸術」の8分野（八思）にわたり、学生一人ひとりの専門分野と経歴に合わせ、原則として研究対象としている専門分野を除く7分野から、選択して履修をします。



各界トップリーダーとの熟議

グローバルリーダーとしての意識向上と疑似体験に基づく演習です。世界トップリーダーとの徹底的な議論、および疑似体験に基づく演習により、使命感・人間力とリーダーマインドを育成します。



合宿型研修施設

グローバルリーダーに求められる異文化社会におけるリーダーシップ力を育成する教育研究環境づくりを目的として、異文化及び異分野出身の学生が昼夜を分かたず切磋琢磨し交流でき、かつ本学伝統の対話型高等教育研究を実施できる合宿型研修施設を整備しています。



テーラーメイド型教育

受け入れる学生の学問背景や基礎的な専門研究分野が異なり、さらに特別研究における研究課題の専門性が学生間で異なることから、学生一人一人に応じたカリキュラム設計を行います。経験豊かな複数の教授陣の助言を受けながら、5年間の学修計画及び必要な履修科目について、系統的かつ経時的に検討を行います。他研究科が開講する専門科目も履修できるよう配慮します。



複数指導教員制度

様々な分野の基礎を習得し、より広い視野から課題解決の方法論を研究することができるように、専任教員をはじめ、学内他研究科及び研究所の教員からの協力を得て、複数の指導教員体制を構築し、学生の教育研究を支えます。



現地実践教育 武者修行

現地で実践的に活用できる知識と経験を習得するため、各自の専門研究と研究成果を社会へ展開する将来構想に基づいて、国際機関や日本企業等の海外拠点等において「フィールドワーク（武者修行）」での国内外での実践教育を課します。

武者修行では、世界視点での自らの位置取りと意識の改革に加えて、国際的リーダーとしての意識と責任感及び突破力を一体的に育成することを目的としています。また国際的に通用する総合力、社会性の育成、リーダーシップ能力の増進を図ります。

〔海外武者修業先の例〕

ACER（Australian Council for Educational Research）オーストラリア、IEA（国際エネルギー機関）フランス、IWA（The International Water Association）オランダ、UNDP（国連開発計画）東ティモール、WIPO（世界知的財産権機関）スイス、CSIRO（Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation）オーストラリア、ERIA（東アジア・アセアン経済研究センター）インドネシア、FAO（国際連合食糧農業機関）イタリア、OECD（経済協力開発機構）フランス

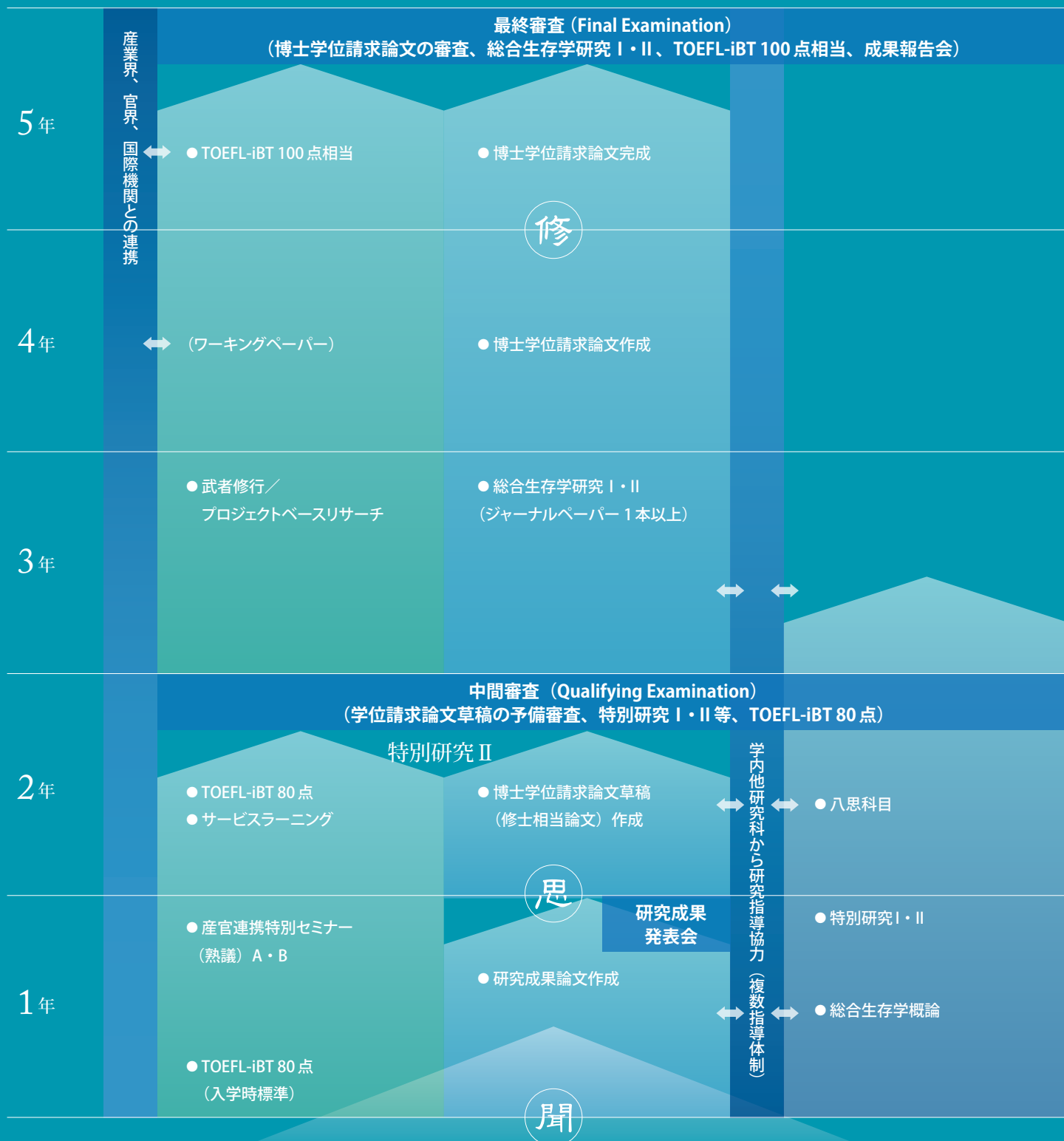


プロジェクト・ベース・リサーチ

学生自らが独自プロジェクトを企画立案し、国内企業と官公庁等の関係者を巻き込んで実行します。分野横断型・連動的に総合課題を解決する企画・実行力、交渉力、発信力の獲得を目的とします。実施にあたっては、予算、実行にかかる人員の調達、関係各所との調整、法的及び経営的な作業などを学生自らが、リーダーシップを持って仲間と共に実行します。必要な資金は、本プログラムの独自公募により獲得するほか、諸団体や一般企業からスポンサーを募り、学生自身の手で資金獲得も行います。

Ph.D

修了 [博士(総合学術)]



多様な学部から入学

育成する人材

総合生存学館では、総合生存学における課題解決情報を、机上ではなくその問題が起きている現場に即して創出し、的確に判断・行動できる高度な専門的能力を身につけた人材の育成をめざしています。そのために、大学学部などで身につけた学術に関する知識をベースに、文理にわたる幅広い専門的学識を積み重ねることで、多様な専門分野を俯瞰する力を培います。また、複数教員の指導と助言のもとで研究基礎力を養い、さらに国内外の社会実践で得られた経験知をモデル化して修得していきます。

また、顕在化している個々の問題解決にあたるだけでなく、人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な問題の本質を理解して、総合生存学に関わる一体的な世界観・人間力・社会力をもとに自ら課題を設定し、その解決への営みを通じて、グローバルリーダーとなる人材を育成します。

官公庁・企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）及び自ら事業を行っている者などフルタイムの有職者の方には、長期履修が可能な場合があります。

修了生・在学生からのメッセージ



山脇 大
第1期履修生

国連（UN-FAO）にて正規職員として勤務を開始

研究科の修士・博士論文執筆とともに、熟議や国内外サービスラーニングを通じて体系的なリーダーシップを、また八思を通じて専門外の学識を修得しました。OECD及びIEAでは政策アナリストとして研修し、国際環境における実戦力を、またPBLでは

国内外機関との共同研究及び国際シンポ主催を通じて発信・調整力を研鑽しました。数百倍の採用試験に合格し、2017年3月より国連（UN-FAO）にて正規職員として勤務を開始します。



キーリー アレックス 竜太
第2期履修生

思修館で研究力、そして研究を実践へと繋げる力を養う

様々な分野の先生方・学生から自身の研究に対してフィードバックがもらえたことによって、研究力、そして研究を実践へと繋げる力を養うことができました。各界のリーダーの方々への考え・思いを直に伺えたことも自分の力となっています。思修館での学び

のおかげで、IEAとUNDPでアナリストとして1年間研修を行い、PBLとして国内で小水力発電のプロジェクトを自ら立ち上げることができました。これからも精進して行きます。



奥井 剛
第3期履修生

八思や熟議、日々の議論を通してグローバル課題解決の端緒を模索

私は社会人から一念発起し2014年に思修館の三期生となりました。これまでの三年間は、文理を跨ぐ八分野に学ぶ「八思」や各界のリーダーに学ぶ「熟議」、また分野の異なる先生方や学友達との日々の議論を通して批判的に自分の研究を振り返りながら、

グローバル課題解決の端緒を模索してきました。今年4月からは10カ月間インターンとしてUNESCOの人文・社会科学局で、変革する社会における哲学・人文学の役割を見直す仕事に携わります。



藤田 萌
第4期履修生

熟議やサービスラーニングによってリーダーマインドを研鑽

特別研究ではビジネスにおける天候リスクをヘッジする金融商品の開発を行い、八思では俯瞰力を強化するため専門外の知識を習得をしました。熟議では産官学のリーダーのもと議論や実践的な体験を通して、また国内外サービスラーニングではボラ

ンティア活動を実践することでリーダーマインドを研鑽しました。

今後は貧困削減・緩和に繋がる金融商品の開発を目指し、引き続き学習・研究を行う予定です。



黒木 龍介
第5期履修生

異なる研究分野からの発想や視点が刺激的

第一学年では、熟議や専門コア科目の講義を通して、自らの視野を広げることが出来ました。同級生の研究分野も多様であり、議論の際には、彼らの自分とは異なる発想や視点が非常に刺激的でした。また、異分野の学習を進める中で、思わぬところで

それらが自分の専門分野と結びつく瞬間を感じました。第二学年でも多様な活動に取り組みますが、その中でさらに総合生存学としての視点を深めたいと考えています。



京都大学 大学院 総合生存学館

思修館

京都大学 大学院総合生存学館（思修館）

〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町 1 東一条館

TEL 075-762-2001

MAIL info.shishukan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL <https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/>